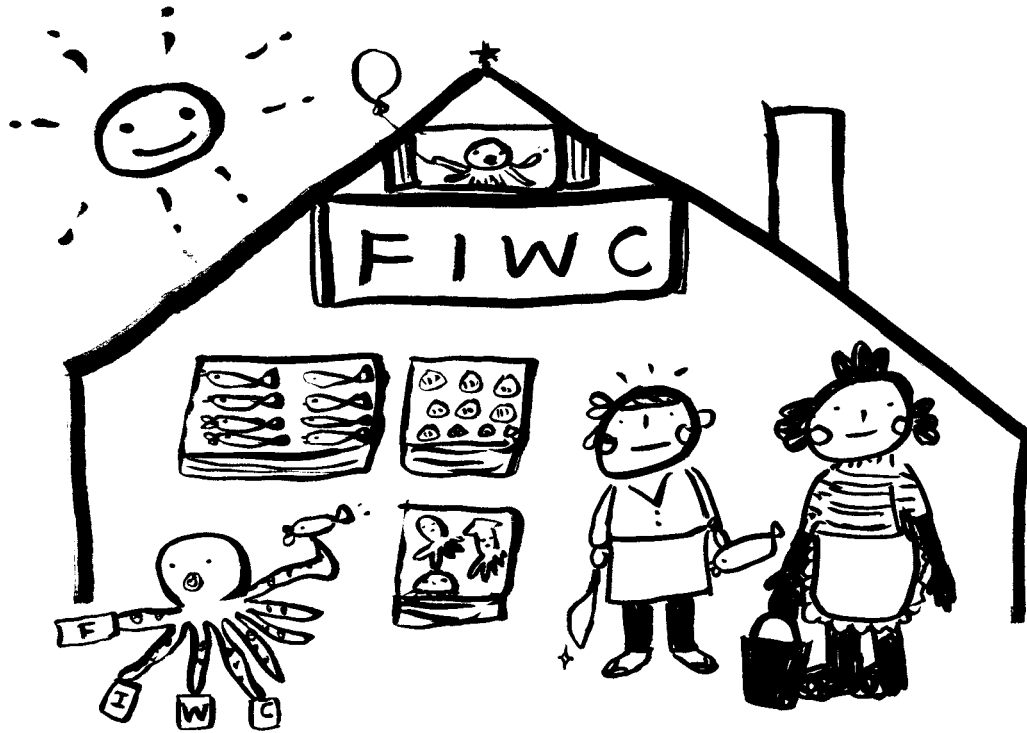




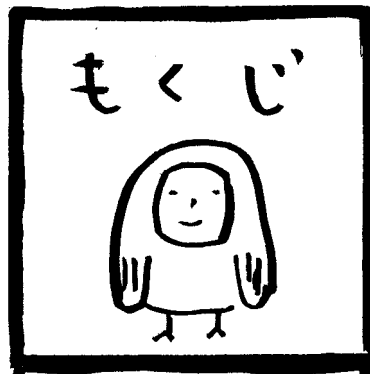
2002年7月

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)
関東委員会 定例委員会報告

2002年7月13日(土)

東京・新中野・目黒鍼灸院にて

参加者： 藤沢真人、目黒美穂子、
佐野一矢、潮田広行、佐藤正明、
西尾雄志

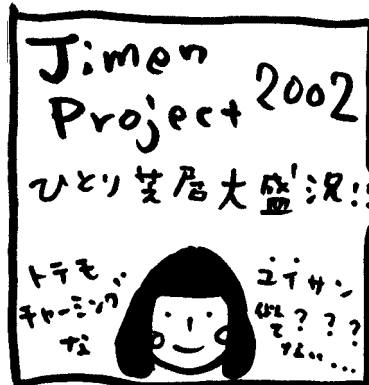
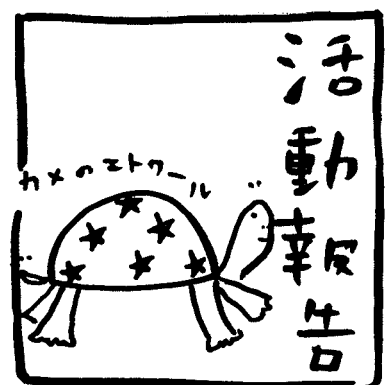


活動報告

Jimen Project 2002 1

活動予定

フイリピンキャンプ 2
韓国キャンプ 2
ちんどん隊・長島愛生園 2
「中国へ」新ワークキャンプ 2
計報 4
FIWC関東・会計から 4
次回の定例委員会 4
ひとり芝居の写真 4



5月31日、新宿文化センターで行われた結純子さんのひとり芝居「地面の底がぬけたんです」は、おかげさまで大盛況のうちに幕を閉じました。

当日は多数の立ち見も出る大入り満員となり、熱気に包まれた会場の雰囲気と相まって、すばらしい舞台が繰り広げられました。

後日お話をする機会がありました。結純子さんにとっても特別な公演のひとつとして心に刻まれたようです。

当初心配されていた興行面でもなんと

か黒字を確保することができ、気持ち先行で主催決定を「押し出した言いだしっぺ」としては、なんともホッとする結果になりました。

昨年暮れからの半年にも及ぶこのプロジェクトを振り返って思うのは、まず成功の要因としてのFIWCが持つ団体としての潜在能力の高さ、西尾委員長のリダーシップ、スタッフの感性の豊かさに支えられていたなあ、ということ。反面、何とか成功に漕ぎ着けたものの、思ったよりも主体的にプロジェクトに関わろうとする人間が少なく、一部の人間に仕事が集まったという反省もあります。

結局個人的なつながりや付き合いという部分を越えてスタッフに手を挙げた人間が少なかったのは、このプロジェクトの目的のひとつである「キャンプ横断的な活動の構築」という面では、物足りなさを残しました。

とは言え、公演終了後の観客の反応、スタッフのいきいきとした表情は、おのおのにとってこのプロジェクトがいかに意義深い思い出になったかを如実に表していたと思います。皆さん本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

◎笠原彦



フィリピンキャンプは8月6日〜20日の2週間の予定で行います。キャンプ地はレイテ島サンペドロ村カリガトナン地区で、キャンプ内容はトイレ作りと井戸掘りです。キャンプは全員で20名(1名は現地からの日本人参加者、又ケさん、そのうち約半分が先発隊として8月1日に現地へ向かいます。現地に行つてからではなく日本にいるうちから参加者の交流を深めたいとこれまでに3度のミーティング(最後に出発前にと1回を予定)を重ねてきました。自己紹介から始まり、ピサヤ語講習、フィリピン国歌練習、そ

してキャンプでの参加者の行動についてのディスカッションなどを行いたいへん有意義なミーティングを持てたと思つています。

あとキャンプまでもう少し。素晴らしいキャンプになりそうです。
◎佐野一矢(ワークリーダー)



韓国キャンプ準備状況

韓国キャンプでは7月7日(日)に学習院大学にてハンセン病、韓国語勉強会を開きました。当日はキャンパー12人に加え、韓国人の留学生が10人程集り、充実した韓国語の授業となりました。

7月14日(日)には明治公園にてフリーマーケットに出店し、メンバーの親睦を深めました。かなり暑い日で、キャンプの状況への訓練となりました。

韓国キャンプ概要

日程: 2002年8月5日〜14日
場所: 全羅南道 ヨンアンゲン ヨンホ農園
内容: 下水道工事、家畜世話、草刈り等
韓国外国語大学校ハナ会との合同企画
国際交流基金、2002日韓草の根交流基金の助成を受けるため、「2002年日韓国民交流年記念事業」という名称を使用出来るそうです。

◎佐藤正明



今年もまた岡山・長島愛生園の夏祭りが近づいてきました。F.I.W.C.ではちんどん隊を仕立てて毎年参加させていたでいます。昨年は関東・関西・地元岡山から30人ほどがクラリネットや太鼓、ヴァイオリン、ギターなど思い思いの楽器を手に、園内を練り歩き、

祭りの雰囲気を感じました。にわか仕立てのちんどん隊ですが、そこは気持ちと気持ち。祭りの風物詩のひとつとして喜んでいただいているようです。

今年は8月1日(木)が祭りの当日となりますが、前日から会場準備のワークがありますので、できれば30日の夜か31日の昼前までに現地に到着するようにしていただければ助かります。今のところ、関東からは10人ほどが行く予定ですが、車で向かうメンバーもいるようですし、交通費が気にかかる人、宿泊はどうなっているの? という人は早めに連絡をください。

この夏祭りにも参加されたことがある蒲公英さんが急死されました。

人は訃報に接し肅然とせざるを得ないという事実を、あらためて痛切に思い知らされています。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◎笠原彦



西尾雄志 F.I.W.C 関東委員会委員長と中村博志があたためていたハンセン病定着村での新キャンプ構想は、中国で実現する見通しとなった。今回のキャンプサイト仮決定は、森元美代治アイデア・ジャパン・コーディネーター、並里まさ子栗生楽泉園副園長、(財)笹川記念保健協力財団・山口和子理事・保健協力部長代理の協力なしには不可能だった。

キャンプ予定地は中国・広東省の潮州市グシアン町にある后医院だ。1960年に設立され、最大で300人の患者が入院していたが、現在の入院者数は15人の高齢で障害のある人だ。ここが最有力キャンプ地である理由は、①他のアジア諸国と異なり、中国の患者は家族から隔離され、生活状況や差別・偏見が厳しく、②中国では、HANDAという数人で構成されるNGO以外ほとんど支援活動をしておらず、③村の設立は1960年で、建物はシロアリの被害のため倒壊寸前であり、④村の規模が小さく、F.I.W

Cのキャンプに適している、などがあげられる。予定では8月下旬に下見をし、11月および来年3月にキャンプをする。

新キャンプを立ち上げるにあたって、スタッフ（西尾雄志、中村博志（欠席）、茂木亮、原田僚太郎、高津阿礼（臨時）は7月9日、森元美代治、アイデア・ジャパン・コーディネーターと清瀬の森元邸において会議を開いた。人脈がゴパール・IDEA会長から多くの弁護士にまでおよぶ森元氏から、東南アジアのハンセン病村の紹介を受けるためだ。候補地としてはネパール・コカナ村、インド、ミャンマーなどがあつた。それらの候補のうち、ミャンマーが最有力だった。というのも、海外で主にミャンマーのハンセン病に関わっている並里まさ子・栗生榮泉園副園長が、森元氏の主治医だからだ。行動力のある森元氏がその場で並里先生に電話し、スタッフは13日、ミャンマーの様子を並里先生から直接きけることになった。

9日の会議の様子は7月26日、フジテレビ「とくダネー」（午前8時）にて放送される（こともありうる）。

並里先生との会議は12日、森元氏も交え、清瀬の某ファミレスにて午後5時から午後10時までの5時間以上におよぶ熱いものとなった。森元氏が絶賛するほど熱心なハンセン病研究者であり、海外でも自費を投じてハンセン病支援活動を行っている並里先生が紹介

可能なキャンプサイト候補地は、ミャンマーはもちろん、ベトナム、中国、パキスタン、ラオス、北インド、コンボにまで及んだ。

資金力・技術力ともに乏しいFIEWCの活動がいかにされるキャンプ地としては、村人ひとりひとりの顔が見えるくらいの小さな規模で、生活状況が悪く、かつ他の支援団体が入っていない村が望ましい。しかしその条件を満たす村は、ミャンマーをはじめ、東南アジア諸国においてはほとんどないのことだった。この事実はスタッフにとつて驚きだった。韓国、中国、日本以外の国々では、患者のもとに家族が自然に集まり、そこに患者も含めたコミュニティが形成され、ある程度の活気が生まれるそつだ。FIEWCとしては、そういった比較的恵まれた、しかも他の支援団体が入っている村でのキャンプ開催はあまり意味をもたないだろう。

12日の会議の直前、「最重要人物」（西尾）といわれるスタッフ・茂木亮は、その人脈をいかし、（財）笹川記念保健協力財団・山口和子理事・保健協力部長代理と同・星野奈央氏に会っていた。山口氏は、中国のハンセン病支援NGO・HANDAのマイケル・IIチャン氏から送られてきたメールを茂木に見せた。それは中国・潮州のハンセン病村の状況を写真つきで伝えるものだった。井戸は壊れて水はにこっている。村人の部屋は荒れ放題。後

遺症は重い。村人は働くことはできないため、政府からの1600人民元（約2300円）の生活補助に依存している状態だ。そのメールによると、早急に壁・木製屋根の修復、貯水タンク・水道・井戸・トイレの設置などが必要で、その費用は合計約135万円になるとのことだ。この目を覆うような状況を改善すべく、是非FIEWCでキャンプをやってほしいと山口氏に頼まれた茂木は、中国キャンプ開催に傾いていく。東南アジアでの新キャンプを想定していた他のスタッフは「中国」に戸惑いながらも、その状況のひどさの故に次第に中国キャンプにひかれていく。

スタッフは2日後の14日午後3時ごろ、超多忙な山口氏から中国のハンセン病状況の説明を受けることができた。キャンプサイト候補地の村は広東省・広州から500キロ離れた潮州グシアン町にある。他にも中国には約660の隔離村があり、農耕民族特有の根強い差別・偏見に苦しんでいる。HANDAというNGOが支援活動を行っているが、職員は数人しかおらず、運営費を募金にたよっているため、思うように活動できない。そもそも中国ではNGOを自由に設立できるわけではない。HANDAの場合は例外的で、創設者・楊理合氏が元公務員で県の役人となつたがりがあったため何とかHANDAを設立することができたのだ。IDEAにふれてHANDA設立を思い立った楊氏は、広東語を駆使しなが

ら患者の目線で治療できる数少ない医者の一入だそつだ。

山口氏の熱意にも動かされ、スタッフの思いは「中国キャンプ」でほぼ固まった。翌15日からハンセン病の状況視察のため北インドへ飛ばれるにも関わらず、山口氏は14日の真夜中、FIEWCの活動をHANDAのチャン氏にメールで紹介し、潮州の村でFIEWCが何をするができるのかについて、また広州空港から村までの交通の便についてたずねてくださった。今後はFIEWCが直接チャン氏と連絡をとり、下見にまでこぎつけることになるだろう。

中国キャンプ開催の上での最大の問題は、言葉の壁だ。広東語（百歩譲つて北京語）を話すキャンパーを探さなければならぬ。日本の大学に留学している中国の学生や、外語大学の学生に募集をかけるつもりだ。

また、14日の山口氏との話し合いで、HANDAの中国語版ニュースレターを日本語に翻訳し、モグネットに掲載するという企画がでた。山口氏によると、中国でのハンセン病の実態や支援活動を知ることには日本人にとつて有意義であり、またそれはHANDAの職員が支援活動をつづけるにあたつて励みとなることだ。そこで、ボランティアでの中国語翻訳スタッフも募集することになった。

さらに、今回の3人のオオモノたちとの話し合いを通じて、スタッフは

中国をはじめアジア諸国のハンセン病の現状を勉強する必要性を痛感したため、ハンセン病の勉強会の開催を予定している。

8月下旬に下見に行くためにはそろそろ飛行機の手配をしなければならぬ。広東語スタッフを探さねばならぬ。

成功を祈ろう。

最後になりましたが、森元さん、並里先生、山口さん、お忙しい中お時間をとってください、本当にありがとうございます。

◎原田 僚太郎

IDEA（アイデア）

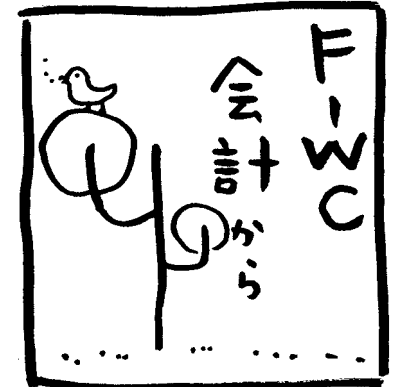
IDEA, The International Association of Hansen's Disease for Integration, Dignity, and Economic Advancement 共生・尊厳・経済向上をめざす国際ハンセン病患者・回復者協議会。

世界30ヶ国において20万人の会員をほこる。

HANDA（ハンダ）

HANDAは1996年にハンセン病問題に直面する人々を始めあらゆる人類における尊厳を促進する非政府組織（NGO）として設立された。

HANDAという名前は、ハンセン病の病原菌を発見したハンセン医師と、ハンセン病問題に一生を注いだダミアン神父の二人の名前をとってつけられた。HANDAはIDEAの支部である。



定例委員会報告

2002年7月号

2002年7月23日発行

フレンス国際労働キャンプ(FIW C)

関東委員会

委員長 西尾雄志

編集・潮田広行

編集・茂木亮 (茂木新聞社)

イラスト: 目黒美穂子

※PDF版では、個人の連絡先などの情報を掲載していません。必要な場合は、次のメールアドレスまで、メールでご連絡ください。

茂木亮 mog@mognet.org

FWC関東委員会の年会費

年会費は3000円です。年会費の振込みは以下のどちらかの口座にお願いします。

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

○郵便振替 口座番号00170-2-565117

加入者名: FWC関東委員会

○郵便貯金 記号10120 番号62574261

口座名義: FWC関東委員会

年会費納入者 (敬称略)

永田良彦、若松友紀子、松下寿一、平野直彦、繁田穰、島倉陽子、鵜飼清、鵜飼えりか

カンパ納入者 (敬称略)

加藤馨、匿名、結純子

どうもありがとうございました。

関西委員会のメンバーで、1995年の阪神大震災でのワークキャンプ以来活動を共にしてきた蒲公英(本名: 浦山武昭)さんが、7月13日、滞在先のタイで心不全のため急逝されました。50歳という若さでした。

関東委員会のメンバーには、年末の忘年会が開かれる六本木のインド料理店「DEVIL」をお世話していただいていた方と言えはわかるかと思えます。蒲さんは阪神大震災キャンプの他に、フィリピン・韓国のワークキャンプ、愛生園の夏祭りチンドンなどに参加。近年は関東に拠点を移し活動されてい

ひとり芝居
「地面の底がぬけたんです」
2002.5.31 東京・新宿文化センター



会場は250人の観客で満員御礼。



公演後に花束を受け取る結純子さん。

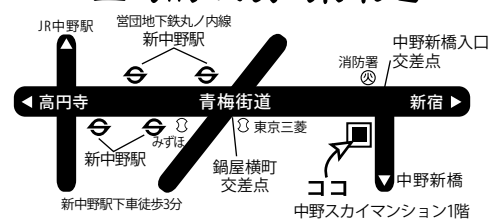


モグネット
www.mognet.org

こんなところに
定例会報告
バックナンバーが!!

モグネットに掲載したい
ワークキャンプの写真は
web@mognet.org まで

目黒鍼療院



東京都中野区本町4丁目5-14 phone 03-3381-9381

定例会はメグシンで
はり治療もメグシンで

月～金: 9:30～17:30
土: 9:30～16:30
日・祝: お休み

